

26Q-pm225

インターネットで医薬品を購入する人の実態調査

○吉田 武史¹, 丸岡 弘治¹, 岸本 桂子¹, 福島 紀子¹(¹慶應義塾大学薬学部)

【目的】一般用医薬品の販売に関して 2009 年 6 月に改正薬事法が施行されようとしているが、2008 年 11 月現在、一般用医薬品のインターネット（以下、「ネット」）販売についての最終的な規制範囲が未だに明確に決定されていない。改正案の段階では、第 1 類と第 2 類の一般用医薬品はネット販売禁止とし、第 3 類のみ販売を許すとする動きがあった。しかしながら、第 3 類に含まれる生薬や緩下剤によって死亡例が出たという背景から、第 3 類の一般用医薬品であってもネット販売を全面的に禁止するという考え方も浮上している。また、現在議論されている内容には多くの推測を基に議論されている為、実際に購入する一般消費者における意識調査により、一般用医薬品のネット販売の問題点の現状把握をするために当該調査を実施した。

【方法】これまで実際に、医薬品をネットで購入経験のある人を対象としたアンケート調査を実施し、その結果や傾向から、今後想定される問題点を抽出した。

【結果・考察】ネット上で一般用医薬品を購入する場合には、ネット上の医薬品に関する情報を、患者が自ら収集する場合も多く、医薬品に関する情報提供の質に関しても今後議論される必要性がある。また一方、ネット販売に関しては、実際の消費者側の利便性や安全性を確保するために総合的に医薬品の販売方法について検討する必要がある、具体的な規制がなされていない、ネット上における医薬品の転売、個人輸入等も十分に考慮する必要性がある。